

きつねづか
狐塚遺跡

(阿賀野市大字熊居新田字狐塚742ほか)

狐塚遺跡は新潟県北東部に位置し、阿賀野川により形成された沖積地上に立地します。遺跡からは東に五頭山、西に弥彦山、北に広大な越後平野を眺める事ができます。国道49号阿賀野バイパス建設工事に伴い、平成19年10月～12月にかけて行った調査で、弥生時代中期後半（紀元前100年ころ）と鎌倉・室町時代（12～14世紀）の遺跡であることが分かりました。

中でも注目すべきは9基見つかった弥生時代の土坑（写真1）です。土坑は平面形が楕円形のものが多く見受けられます。中から小型の壺、甕、鉢、蓋が見つかり、割れや欠けがほとんど見られない土器もありました。また、あたかもその場に据えられていたかのようにして見つかったものや3～4個体が直線的に並んだ状態で見つかった事例（写真2）もありました。土器を詳細に観察すると、日常使用するものに比べ小型ですが、ていねいなつくりで文様も精緻に刻まれているものが多いことが分かります。

これらの土坑は土坑墓（地面に穴を掘り遺体を埋葬したお墓）の可能性が高く、土器（写真3）は副葬品と考えられます。科学分析の結果や他遺跡の事例との比較検討を踏まえ、今後明らかにしていきたいと考えます。

弥生土器の形や文様は多種多様です。そこからは北陸地方や東南北部・北部の土器様式が多様に融合している様子が観察され、当時の人々の交流を物語っています。

(杉田和宏)



写真1 土坑墓集中区域(北東から)



写真2 一直線上に見つかった土器(北東から)



写真3 墓の副葬品と考えられる小型土器